

# 読 書 楽 天 園

麦の禾見てあるうち痒くなる  
町田市 枝沢 聖文

特急も鈍行もみな窓青葉  
白井市 毘舎利道弘

こどもの日子供でゐたい母あれば  
埼玉県 浜名 勇

もう次の枝を見てゐる袋掛  
大阪市 今井 文雄

凱旋のごとく掲げて捕虫網  
神奈川県 中島やさか

## 小池 光選

京都から三重県津から近所から届く筍の竹取物語  
町田市 永井 悦子

【評】遠くの友人、知人からことしもタケノコが届く。そのように喜びを詠って、結句の「竹取物語」への展開が意外性あつておもしろい。まるで私が物語の主人公になったよう。

禅寺へ近道小道敷く椿案内うけたるごとく踏みゆく  
豊前市 中村 澄枝

【評】「近道小道」などの調べが軽快で、よくできた歌。路上に落ちた椿の花を踏んで、禅寺におまいりに行く。誰もいない、ひっそりとした感じがよく伝わってくる。

いい事が有つたら電話しようねと言ひ合ひし友  
調布市 川久保洋子

黙つて逃げり  
【評】せつない歌だ。なかよしの大切な友達、何も告げず、ひっそり逃げてしまった。いい事を知らせる電話を待っていたのに。

楽しげに水面をはしる水馬 癩治療せず兄は  
遊遊たり  
笠間市 小沢まさみつ

半額のセールま近き夕まぐれ殺気立つなり惣菜  
売相場  
足利市 熊田 敏夫

優先席すわる翁のリュックから青き長ネギ顔  
出している  
横浜市 桃井 恒和

片方の手袋道に捨て置かれもう片方の気になる  
夕べ  
仙台市 小野寺健一

理科室のにおいを愛した少年は化学会社で定年  
むかえ  
倉敷市 中路 修平

亡き妻の思い出として植えし苗ミモザ四年目花  
の咲き初む  
上尾市 清水 昇一

さあごでお昼にしてよう母さんとレンゲ畑で食  
べた塩むすび  
岩国市 井川 栄子

犬の寝言に返事してやるおぼろ月  
高槻市 村松 謙

子規の選受けてもみたき虚子忌かな  
東海市 斉藤 浩美

口々に風のことだけ言ひ五月  
福岡県 松養 花子

海光の張りつく海薙掻きにけり  
仙台市 佐藤 庄陸

筍を掘りに行くぞと湯を沸かす  
高槻市 平山 良志

## 栗木 京子選

山の畑「天国みたい」と大声の祖母と二人の花  
吹雪受く  
奈良市 甲斐田 祥

【評】祥さんは十五歳。少女に戻ったような祖母の姿がほほえましい。「二人で」でなく「二人の」と表したことで、二人だけの花吹雪を味わう充実感が伝わってくる。

句のもの母のおかげで食べていた物々交換島の暮らしよ  
佐渡市 野田 守遊

【評】社交的な母なのだろう。海が荒れて物品が島に届きにくいときも、上手に調達していた。句の食材を大切にしていたのすばらしい。「物々交換」に説得力を感じた。

妻からのお裾分けなるカーネーション一輪挿し  
山口市 久保田麗二

【評】母の日に妻へと贈られたカーネーション。一輪だけ分けてもらった。「一輪挿し」で書斎に飾る。

書斎に「の」の具体がほのぼのとしている。  
モノクロの印刷となる菓子袋ホルムズ海峡色まで奪ふか  
守山市 岡本 光夫

ひととせで母の介護度3→1に バニラ色した薔薇をもとめむ  
平塚市 北村みゆき

ガザ地区に水乞う老いた女いて祖母に似ており  
わねに似ており  
仙台市 江川 森歩

葛蒲湯で裸のままの深呼吸心の中の災い除く  
千曲市 柳沢 隆

腑分けする父は左手にナイフ持ち雑子の関節見  
事に外す  
対馬市 神宮 斉之

母の日に贈り物せぬ弟は顔を見せたと誇りてい  
たり  
神戸市 浅田 拓史

特典を生かすためにはまず先に新型スマホを買  
わねばならず  
札幌市 橋 晃弘

## 俵 万智選

お互いが譲ってできた空間に窓から差した光が  
座る  
東京都 吉田 敦史

【評】待合室かバスか電車か……。相手を思いやる気持ちが交差した結果、ちょっと気まずいような空席が生まれた。そこにちゃっかり(〇〇)座るのは光。のどかで優しい世界だ。

ほろほろとサンドイッチをこぼれ出す寝められ  
たさに似ているレタス  
東京都 鳥さんの臉

【評】腑に落ちる比喩ではなく、考えさせてくれる比喩だ。サンドイッチのレタスは、脇役だけれど、まあまあ主張はある。寝められたい気持ちで、メインではないが、常に心のどこかにある、かも、しれない。

六年の君の履歴を削除してアンドロイドとわたし  
再生  
和歌山市 若野 順子

【評】スマホと同時に、私自身も一新する。下の句の弾むリズムが、気持ちと響き合う。神社のきだ上がる力の今あるはやがて無くなることもおもふ

また同じ話をしてる伝説のベストアルバムのよ  
うな祖父だ  
八王子市 丸山 和貴

順番に鋭利な言葉を差し込まれ黒ひびきたいに  
飛び出せたら  
越谷市 秋山ともす

大沼の岸の石段に寝突けばムツムツムと怒  
り狂ひぬ  
桐生市 胡蝶夢

揚げたてのコロッケのようなさよならが帰る心  
を温めている  
仙台市 小野寺寿子

AIにやさしくされてしまいう人には言えぬ  
ことある夜は  
東広島市 曾田 均

レントゲン技師が「いたずらしますね」と言っ  
てボードを左にずらす  
新座市 睦月くらげ

## 黒瀬 珂瀾選

作業着のZIPジャリりと引きあげて十八時  
まで歯車になる  
高島市 くらたか湖春

【評】現場仕事に入る情景でしょう。これから定時まで無心になって働かねばならない。でも、ジッパーを引きあげるさまはとつても粹で、自らの仕事への誇りも感じます。

出征の父の残し炭焼窯は山懐に窪みとなり  
ぬ  
福知山市 阪梨 義春

【評】父の出征後、その炭焼窯に火を入れる人も途絶えた。戦後の長い時を経ていつしか窯は、山の自然に帰ってしまった。人の営みを遮断する、戦争の悲しみを思います。

こもりの利智の小道の仏たち目鼻なけれど石  
塊ならず  
射水市 斉藤 久雄

【評】富山県の利智は山奥ながら演劇祭で知られる地。その山道には古い石仏が多数残る。風化していても人々の祈りが宿る御仏だ。

岡野先生の選びたまひし我が九首宝となして励  
みてゆかむ  
川口市 春山ふみ子

せつないの反意語ふいに思ふとき白ひかりを  
撒きバスが来る  
垂水市 岩元 秀人

警察署の前でも甘い蜜ありて街路の躑躅に蝶は  
集まる  
静岡市 柴田 和彦

土台のみ出来た他人の建物の間取りをかってに  
仮想しており  
東京都 新美喜代男

雨の朝おんぶおんと掃除機はたまった曇さを  
すいこんでいる  
東京都 青木 公正

さよならを言うため待っていましたと目の前で  
散つてゆくクレマチス  
平塚市 風花 隼

新緑の桜の呼吸を身にふかくそそぎつつゆく朝  
の工場へ  
春日部市 宮代 康志



題字デザイン・イラスト 福田美蘭

ではなかったのだ。

次回は16日(火) 掲載予定

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。  
◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから 右の影絵ははなしょうぶ